

# 区民による政策評価を

せの：区の自己評価である政策評価結果が初めて発表された。区政の現状を施策ごとに分析、評価する手法で、1000を超える事務事業分析シートは事業内容がよくわかるように説明されている。区民による政策評価＝区の事業の優先順位の判断や問題点の指摘を区民が行う仕組みづくりに活用して欲しい。

区：区民にわかりやすく情報を提供し、意見を受け止める方法について研究していく。

## ●区政75周年事業（予算額2000万円）は区民を幸福にするのだろうか

せの：一過性のイベント事業やシンボルマーク作成・モニタメントの設置などは、区民にとって優先度は低いのではないかと。

区：区民が区に誇りをもてる事業と考える。

せの：産業や文化などは区職員が担うのではなく、区民が担う仕組みづくりと担い手となる区民を育てる観点が必要。将来につながる事業にして欲しい。

## 荒川区の財政を考える

全国800自治体中

総合順位……………54位

自主財源比率……………742位

経常収支比率……………112位

一人当たり潜在債務……………12位

（日経グローバル第71号2007.3.5より）

借金が少なく、おおむね健全である。が、区民税などの自主財源が乏しく自主財源比率は23区でも最低。東京都の税収が荒川区にも支給されるおかげで、区民サービスが提供されている。東京都は税収が多く、行政サービスが充実しているが、地方はお金が無くてサービスが少ない。

「地方は厳しい」の声に耳を傾けよう。



## ●苦情が多く、区民評価の低い「就学相談」の改善を

せの：障がいのある子の小学校選択のための就学相談が、親の希望よりも区の判断を押し付けられるため、「就学相談を受けない」という結果になっている。特別支援教育の開始にあたり、まずは親子の想いを受け入れ、温かく、助言し支援していく姿勢が必要ではないかと。

区：そのような事例は残念なことである。温かい支援ができるよう努力したい。



## DV（配偶者間暴力）防止の取り組みに暴力の連鎖の視点を

せの：学校での学級崩壊や暴力事件に、家庭内で暴力に接している子どもが関与しているケースが多いようだ。暴力は親から子へ受け継がれる。暴力の連鎖を断ちきる視点を持って、DV防止に取り組んで欲しい。年1回の関係者連絡会議、年1回のキャンペーンでは不足しているのではないかと。

区：DVの相談件数は増えている。取り組み方法を検討したい。



STOP  
女性への  
暴力

区内ではこのポスターみかけましたか？

## 就労支援の充実を

### <障がい者>

せの：障がい者就労支援センターじょぶあらかわは担当職員の移動が激しい。今の体制では、障がい者の生活・就労支援や企業との連携が不安である。安定した職員配置をお願いしたい。

区：安定した関係は不可欠なので努力したい

### <母子家庭・DV 被害者や野宿経験者等>

せの：障がい者就労支援センターが生活と労働の支援で実績を上げている。就労支援は特性に合ったきめこまかい支援が必要。専門に支援している民間団体との連携は？

区：区がやれることには限界がある。民間団体との連携は求めていきたい。